



第6回 Beyond AI 研究推進機構 国際シンポジウム

2026年2月10日(火) 14:30-18:30 ハイブリッド形式(会場+オンライン)

会 場

福武ラーニングセンター

東京大学 本郷キャンパス 情報学環・福武ホール 地下2階

オンライン

Zoomウェビナー

Beyond AIより新たな科学へ

東京大学とソフトバンクとの産学協創事業であるBeyond AI 連携事業は2020年に開始され、Beyond AI研究推進機構を研究拠点として、AIの基盤技術研究やその他の学術領域との融合によって、新たな学術分野の創出を目指す「基礎研究(中長期研究)」と、さまざまな社会課題・産業課題へのAIの活用を目的とする「応用研究(ハイサイクル研究)」の二つの領域で研究を推進してきました。中長期研究では既に多くの研究成果を生み出し、目標とする新学術分野も明確となりました。本シンポジウムでは、三つの新学術分野とその成果を取りまとめ、国際社会に発信いたします。

参加登録

右のいずれかより、
ご登録ください。

会場でのご参加お申込み ▶▶▶

<https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/0210BAonsite/reg/>



ウェビナーでのご参加お申込み ▶▶▶

<https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/0210BAwebinar/reg/>



※参加登録は定員になり次第、締め切らせていただきます。

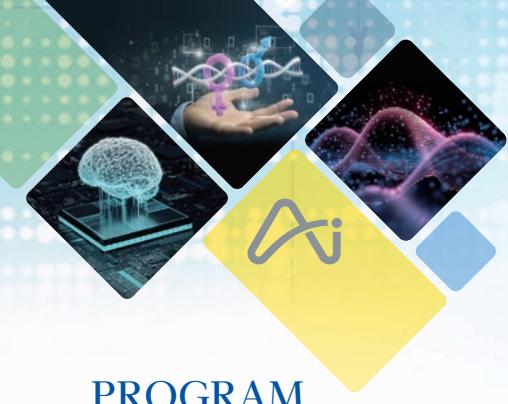
主催：東京大学 Beyond AI 研究推進機構

問い合わせ先：東京大学 Beyond AI 研究推進機構 事務局 E-mail: event@beyondai.jp



SoftBank

LINEヤフー



第6回Beyond AI 研究推進機構 国際シンポジウム

Beyond AIより新たな科学へ

PROGRAM

言語:英語・日本語(同時通訳あり)

14:30-14:45 開会挨拶

藤井 輝夫 東京大学 総長
宮川 潤一 ソフトバンク株式会社 代表取締役 社長執行役員 兼 CEO

14:45-14:55 Beyond AI 連携事業の紹介・趣旨説明

萩谷 昌己 東京大学 Beyond AI 研究推進機構 機構長

14:55-17:35 第1部 (英語)

セッション1 知能の基礎物理学の構築を目指して 14:55-15:45

齊藤 英治 東京大学 大学院工学系研究科 教授
田畠 仁 東京大学 大学院工学系研究科 教授
茂木健一郎 ソニーコンピュータサイエンス研究所 上級研究員／東京大学大学院 客員教授及び特任教授

セッション2 脳と人工知能の融合:新しい知性の創発へ 15:55-16:45

大木 研一 東京大学 大学院医学系研究科／国際高等研究所 ニューロインテリジェンス国際研究機構(WPI-IRCN) 教授
池内与志穂 東京大学 生産技術研究所 教授
池谷 裕二 東京大学 大学院薬学系研究科 教授
長井 志江 東京大学 国際高等研究所 ニューロインテリジェンス国際研究機構(WPI-IRCN) 特任教授

セッション3 AIと社会:未来に向かう創意と責任 16:45-17:35

久野 愛 東京大学 大学院情報学環・学際情報学府 准教授
Sang Wook Yi 漢陽大学 哲学研究科 教授
Celia Spoden ドイツ日本研究所 主任研究員
板津木綿子 東京大学 大学院情報学環・学際情報学府 教授

17:45-18:25 第2部 パネルディスカッション (日本語)

モレーテー

萩谷 昌己 東京大学 Beyond AI 研究推進機構 機構長

パネリスト

(五十音順)

池谷 裕二 東京大学 大学院薬学系研究科 教授

大木 研一 東京大学 大学院医学系研究科／国際高等研究所 ニューロインテリジェンス国際研究機構(WPI-IRCN) 教授

齊藤 英治 東京大学 大学院工学系研究科 教授

田畠 仁 東京大学 大学院工学系研究科 教授

原田 達也 東京大学 先端科学技術研究センター 教授

久野 愛 東京大学 大学院情報学環・学際情報学府 准教授

18:25-18:30 閉会挨拶

萩谷 昌己 東京大学 Beyond AI 研究推進機構 機構長

司 会

大木 美加 東京大学 国際高等研究所 ニューロインテリジェンス国際研究機構(WPI-IRCN) 特任研究員 | URA

第6回Beyond AI 研究推進機構 国際シンポジウム



開会挨拶

藤井 輝夫 東京大学 総長

1993年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了・博士(工学)、同生産技術研究所や理化学研究所での勤務を経て、2007年東京大学生産技術研究所教授、2015年同所長。2018年東京大学大学執行役・副学長、2019年同理事・副学長(財務、社会連携・産学官協創担当)を務め、2021年より同総長に就任。2025年6月より国立大学協会会長。専門分野は応用マイクロ流体システム、海中工学。



開会挨拶

宮川 潤一 ソフトバンク株式会社 代表取締役 社長執行役員 兼 CEO

1991年 株式会社ももたろうインターネット 代表取締役社長

2000年 名古屋めたりく通信株式会社 代表取締役社長(現ソフトバンク株式会社)

2003年 ソフトバンクBB株式会社 取締役、2007年ソフトバンクモバイル株式会社 取締役専務執行役員 兼 CTOを経て、2021年より現職。

その他、米Sprint Corporation Technical Chief Operating Officerを務めた経験を持つほか、現在、Aホールディングス(株) 代表取締役、PayPay(株) 取締役を兼任。



Beyond AI 連携事業の紹介・趣旨説明／モダレーター／閉会挨拶

萩谷 昌己 東京大学 Beyond AI研究推進機構 機構長

東京大学理学部情報科学科博士課程修了後、京都大学数理解析研究所を経て、1988年博士(理学)取得。2022年3月まで東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻教授。2022年6月名誉教授。プログラミング言語の理論、ソフトウェアテスト、形式的検証などソフトウェア科学・工学に加えて、DNAコンピューティングを中心に自然計算(自然現象を活用した計算)の研究を行う。2021年4月よりBeyond AI 研究推進機構機構長。



セッション1／パネリスト

齊藤 英治 東京大学 大学院工学系研究科 教授

2001年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。博士(工学)。専門は、量子物理学・物性物理学。基礎物理法則の歴史に新たな1ページを刻むスピinn量子科学における世界的リーダー。2018年より東京大学大学院工学系研究科教授。2020年よりBeyond AI 研究推進機構の基礎研究「物理とAIの融合」プロジェクトリーダーを務める。研究テーマは、「物理とAIの融合」、「AIを活用した物質の量子的性質の解読」。



セッション1／パネリスト

田畠 仁 東京大学 大学院工学系研究科 教授

京都大学卒。博士(理学)。昭和63年川崎重工業(株)技術研究所入社。平成6年大阪大学助手、助教授/准教授、教授を経て、平成18年より東京大学大学院工学系研究科教授。レーザMBE法を用いた機能性酸化物薄膜・人工格子の研究。酸化物エレクトロニクスおよびバイオエレクトロニクスの融合研究に従事。第4回日本学術振興会賞(平成20年)、第35回応用物理学会優秀論文賞(平成25年)、第8回応用物理学会フェロー表彰(平成26年)等受賞。



セッション1

茂木 健一郎 ソニーコンピュータサイエンス研究所 上級研究員／東京大学大学院 客員教授及び特任教授

脳活動からの意識の起源の究明に取り組む。『脳と仮想』(新潮社)で第4回小林秀雄賞を受賞。『今、ここからすべての場所へ』(筑摩書房)で第12回桑原武夫学芸賞を受賞。IKIGAI, Nagomi, Stoicismに関する英語の著作がある。



セッション2／パネリスト

大木 研一 東京大学 大学院医学系研究科／国際高等研究所 ニューロインテリジェンス国際研究機構(WPI-IRCN) 教授

1996年東京大学医学部卒業。2000年同大学院医学系研究科博士課程修了。博士(医学)。

東京大学助手、ハーバード大学医学部リサーチフェロー、同インストラクターを経て、2010年より九州大学大学院医学研究院教授、2016年より東京大学大学院医学系研究科教授を務める。

大木教授は、脳細胞機能イメージングの第一人者。数千の神経細胞の活動を計測する技術を世界に先駆け開発。これを用い脳情報を人工知能に写し取る技術を開発。脳情報処理への理解を深め、脳型の次世代人工知能開発を目指す。



セッション2

池内 与志穂 東京大学 生産技術研究所 教授

ヒトのiPS細胞から神経細胞や組織(オルガノイド)をつくることを通じて、神経系が出来上がる仕組みや、脳が機能するメカニズムなどを理解することを目指している。東京大学、ハーバード大学医学部、ワシントン大学(セントルイス)医学部での研究活動の後、2014年より神経科学と組織工学を融合した研究を行っている。Beyond AI研究推進機構では脳オルガノイドの応用について研究を行っている。

第6回Beyond AI 研究推進機構 国際シンポジウム



セッション2／パネリスト

池谷 裕二 東京大学 大学院薬学系研究科 教授

1970年生まれ。1998年に東京大学にて薬学博士号を取得。2002～2005年にコロンビア大学(米ニューヨーク)に留学をはさみ、2014年より東京大学薬学部教授。専門分野は神経生理学。脳の健康と能力開発について探究している。2018年よりERATO脳AI融合プロジェクトの代表に就き、AIチップの脳移植によって新たな知能の開拓を目指している。文部科学大臣表彰若手科学者賞(2008年)、日本学術振興会賞(2013年)、日本学士院学術奨励賞(2013年)などを受賞。



セッション2

長井 志江 東京大学 国際高等研究所 ニューロインテリジェンス国際研究機構(WPI-IRCN) 特任教授

2004年大阪大学、博士(工学)。情報通信研究機構(NICT)専攻研究員、ビーレフェルト大学ポスドク研究員、大阪大学特任准教授、NICT主任研究員を経て、2019年より東京大学特任教授。構成的アプローチから人間の社会的認知機能の発達原理を探る、認知発達口ボティクス研究に従事。認知発達の時間的連続性と個人の多様性が、脳の予測情報処理に基づいて統一的に説明できることを提案。35 Women in Robotics Engineering and Science (2022)、Forbes JAPAN Women In Tech 30 (2024) などに選出。



セッション3／パネリスト

久野 愛 東京大学 大学院情報学環・学際情報学府 准教授

東京大学大学院情報学環准教授、東京大学卓越研究員。感覚史・技術史・経営史が専門で、特にアメリカ合衆国の20世紀史に焦点を当てた研究を行っている。デラウエア大学歴史学部でPhD取得後、ハーバードビジネススクールにてポストドクトラルフェロー(2016-2017年)、京都大学経済学研究科にて講師(2017年-2021年)を務めた。近著に『視覚化する味覚—食を彩る資本主義』(岩波書店、2021年)。また、『Visualizing Taste: How Business Changed the Look of What You Eat』(ハーバード大学出版局、2019年)は、ハグリー・プライズおよび清水博賞を受賞。現在は、感覚やエステティクスと技術・AIに関する歴史研究に取り組んでいる。



セッション3

Sang Wook Yi 漢陽大学 哲学研究科 教授

漢陽大学哲学研究科教授。ソウル大学で物理学学位を取得後、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスで科学哲学の博士号を取得。漢陽大学にて科学技術の倫理・法・政策センターを創設。研究領域はAI倫理、合成生物学、ポストヒューマニズムなど多岐にわたる。韓国政府の複数の技術評価委員会の委員長のほか、韓国科学哲学会の会長やユネスコの科学的知識と技術の倫理に関する世界委員会(COMEST)の副議長を歴任。また、2021年のユネスコ「AI倫理に関する勧告」を起草した特別専門家会にも参加。



セッション3

Celia Spoden ドイツ日本研究所 主任研究員

ドイツ日本研究所(DIJ)主任研究員。文化横断的な視点から、科学技術社会論、医療人類学、生命倫理学を架橋する研究に取り組んでいる。これまでの研究では、医療における意思決定、終末期ケア、デジタル技術の社会的影響に関するエスノグラフィーを行ってきた。DIJでは、デジタル・トランスフォーメーションの研究クラスターに所属し、人口動態の変化や労働力不足の文脈から、日本のイノベーション政策およびロボット戦略を分析している。また、障害者や慢性疾患を抱えるなど社会的に脆弱な立場にある人々に焦点を当て、アバターロボットが社会にもたらす可能性とリスクについて研究を進めている。



セッション3

板津 木綿子 東京大学 大学院情報学環・学際情報学府 教授

東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授。デジタルメディア技術と社会の接点、日常生活の営みにおけるメディア、レジャーと権力との関係について文化史社会史観点から研究。とりわけ社会的マイノリティの包摂、メディアの人種・エスニシティ表象など文化政治が研究テーマ。人工知能の活用によって起こりうる排除や差別、そして同技術によって可能となる包摂についても関心を持っている。またアジア太平洋地域からAI技術開発やガバナンスに関する地政学的な分析にも関心を持っている。フルブライト奨学生として米国南カリフォルニア大学に留学し、歴史学の博士号取得。



パネリスト

原田 達也 東京大学 先端科学技術研究センター 教授

2001年3月に東京大学で博士(工学)を取得。2013年4月に東京大学大学院情報理工学系研究科教授、2019年9月より東京大学先端科学技術研究センター教授。理研AIPチームリーダー、国立情報学研究所医療ビッグデータ研究センター副センター長などを兼任。研究テーマはコンピュータビジョン、機械学習、知能ロボット。



司会

大木 美加 東京大学 国際高等研究所 ニューロインテリジェンス国際研究機構(WPI-IRCN) 特任研究員 | URA

早稲田大学より修士(工学)、筑波大学より博士(工学)を取得。産業技術総合研究所、筑波大学システム情報系を経て、現在は筑波大学サイバニクス研究センターの客員研究員を兼務。2014年よりJST CRESTの助成によるFUTUREGYMプロジェクトに参画し、複合現実感(MR)を活用したインクルーシブ教育・療育環境の創出に取り組む。ヒューマンコンピュータインタラクション、AR/MR、支援技術に関する専門性をIRCNにおける研究マネジメントに活かしている。